ブランコの孤独

思えば、保育園の時から
自分って少し可笑しかったのかもしれない。

家庭は、まあそんなに裕福ではありませんでした。
田舎には仕事が無く、母も内職、父も身を粉にして働いて
三人姉妹を養ってきた、そんな後ろ姿を見てきて育って
その時までは違和感なんて感じませんでした。

お金が無ければ幸せになれない、と思いだしたのは
まだ先の話。

ともかく、タイトルの様に
私は大概ブランコで一人だけ、遊んでたりしました。
周りと馴染めなかったんですね。
その時はどうして？とか、何故自分は一人なのか、という疑問すら浮かばない年頃ですから
一人である環境を疑いもしなかった。

二番目の妹は、知的障害者で
先生が着いてました。
三番目の妹は、結構世渡り上手で
某ナントカママさんが言うように、末っ子は器用に出来る。の代名詞でした。

家…はその時無くて
アパートに住んでました。
ぼろぼろのアパート、それでも歳が歳ですから
その環境を不遇と思った事は無い。
ただそこでもブランコで一人ぼっちでした。

そのブランコも、オンボロで
何時壊れるか分からないのに、子供だからでしょうか
怖いとも思わず、思いっきり振って遊んで一

でも、一人でした。
その時母も父もどう思っていたのかは知りません。
お互いに多忙で、働き続けて来たのだから多分子供がどう過ごしているかなんて

気づく余裕もなかったでしょう。
特に父はその時とても怖くて、私もあんまり父の傍には近寄らなかった。

保育園の時は本当に、ブランコと友達でした。
でも今乗れと言われたら、無理です。
太ってるからという事前提で、多分酔うでしょうね。

しかしブランコというのは、何となく寂しい遊具ですね。
ジャングルジムとかシーソーは、他の誰かが居て初めて楽しむ物なのに
ブランコだけは一人で遊べる、孤独な遊具だと思います。

そんなブランコを今はもう見ていません。
最近見かけなくなったかな。
危ないからでしょうか、とりあえず自分が最初に住んでいたアパートの
ブランコはすっかり錆びて、壊れていました。

今じゃそこは猫の住処になってます。
もう公園の面影も無くなって。
そう言えば滑り台もあったな…その下に、偶然見かけたハトの死骸を
埋めて埋葬した事があります。
それが多分初めて、「死」と言う事に直面した時だと思います。

私は良く自分の小説の中に、ブランコという遊具を用いるのですが
それが自分の幼少期と関わっているのか、というのは分かりませんけどね。

簡単に一人ぼっちに出来る遊具。それが「ブランコ」なんです。

歯医者と距離

子供のころ、歯医者と医者は
怖いと思われがち。
今もそうかと言われると、場所によりけりでしょうが
私の幼少時も、そりゃー怖かった。

一番最初に「怖い」と思ったのは
「歯医者」でした。
虫歯が出来てしまったんですね。残念な事に。
そうなったらレッツゴー歯医者、イッツアトライ。母に連れられて向かったのは
田舎らしからぬ、ちょっと「お化け屋敷」に該当する位の微妙な怖さが醸し出された
歯医者でした。

今は歯医者もリニューアルして、綺麗な所になってますが
当時覚えているのは何か意味のない「錆びた鎖」が無数に垂れ下がっていて
奥が廃墟みたいな建物のある、その隣が歯医者でした。

お決まり上等、あの歯がゆい音が聞こえ
子供だったら一度は憶するでしょう。
私もその一人、本当に怖い音が聞こえて泣きわめき
結局歯医者に行けなかったんですね。

そこが問題だった。

実は保育園を休んで、歯医者に行ったんですね。
でも、結局行かなかった。
保育園に戻って来て、お決まりのブランコに座ってたら
同い年の保育園児…と言うか、同級生ですね。

囲まれて、ずる休みと吹聴されました。

私はその時何とか弁論しようと思ってたんですが
圧倒的な数に、多分何を言ったか覚えてない。
結局ビビって歯医者に行けなかった自分が悪い。と思って
泣いてたのは覚えてます。

その時がきっかけで、ますます同級生と
距離が開きつつある事に、まだ気づいていなかった。

歯医者って怖いですよね。
今じゃ健康大事ですから、病院なんて行くさーな雰囲気ですが
昔は病院そのものが恐怖の対象でしたから、私が泣いて行かなかったのも
別に今だってあり得ない事ではないと思うのですが

その時の同級生は私の臆病に
「いじめ」の片鱗を見せて来たのかもしれません。

夢は何ですか？

保育園…だけに拘らず
どっかで一度は聞かれると思うのですが

「将来の夢は何ですか？」と言う質問が
出てきますよね。
勿論保育園の時にも、自分の将来の夢を絵にしてくださいという
お遊戯…まあ、自己表現の場がありました。

そこで、一つ疑問。
今の子って夢を聞かれると、何と答えるんでしょうね。
アイドルかな、Ｊかな？その質問を受けた時の年齢層によりけりですが
多分現実的な夢を語るのだと思います。
そういうのは時代によって様変わりしますが、その頃は
花屋とかケーキ屋、パイロット、警察官…まあありきたりでした。

それが悪いという訳じゃないんですよ？勿論それも
その子が一生懸命考えた自分の将来。
大概その夢って叶わずして、別の人生歩むパターンが多いこのご時世
子供の時ぐらい夢を素直に語っても良いと思う。

でも、夢と言うのは残酷ですよね。
言葉そのものに悪意は無いけど、固執すればただの苦しみ。
追い続けるその先に、気づけば夢にたどり着けない現実を知ったその時が
結構な歳になってる事も、あったりする。
だから夢を持つという当たり前の言葉も、時には残酷に感じたりするんですよね。

さて、そんな議題が持ち上がり
私は何と答えたかと言うと

「お姫様」でした。

ぷー…ですね。
アイドルより遠い夢を口にした私って今思えば馬鹿なんじゃないかと。

ご丁寧にイラストも描きました。勿論保育園の話ですから
お姫様という夢も肯定範囲でしょう。
むしろ小学生や中学生でそんな事言ったら、狂言扱いでしょうし
許される時代に、よくもまあ…その夢までの距離も知らずして、言えたものだなと思いました。

でも、そういう非現実的な夢を口にしたのは
私一人だったんです。
それって悪い事でしょうか？
世間知らずの夢だと笑うならそれでも良いですが、まだ小さな時に
自分の夢にリミットかける方が切ない気がします。

今子役のブームがあって、まだ小さな子供でも
テレビの舞台に上がる為に、子役を志す子供が沢山居ますけど
それも子供が「子役になる事が夢」と思わせる位の、世間の影響があるのだと思います。

じゃあ自分は現実的な夢を抱くのが普通の時代に反して
「お姫様」なんて語る。その頃から自分は少し違うんじゃないかなと思います。
かと言って子供の夢ですから、制限なんて設けるべきじゃない。
その時思った最初の夢は、尊ぶべきだと思います。

ただ、確かに、確かに

浮いてました（苦笑）

今の子は、夢を語る事に躊躇したりするんでしょうか。
思っても自分の心の中で折り合いをつけて、駄目なんじゃないかと思ったりするんでしょうか。
でも一度位は、そのリミットを外して

馬鹿と思われるような夢を口にしても
良いんじゃないかと思います。

万引き

ダメ、ゼッタイ。

万引きって駄目ですよねー。
（当たり前か）
今グループで万引きしている若い子とか居ますよね。
その万引きも被害が重なれば、店にとっては甚大な被害。
犯罪と言う重みも知らないで、本やゲーム、色んな物を平気で盗んだりする。

そんな「ダメ、ゼッタイ」のスローガンをさておき
私も一回万引きをしました。
貧しかった為にお菓子があんまり買えず、当時10円のチロルチョコを
万引きしてしまったのです。

子供の時ってお菓子食べたいと思うじゃないですか。
まあ限度もありますけど。
ガム一つ買えない、駄菓子屋は通り過ぎる。
母の買い物について行っても、何一つ買えないフラストレーションは

結局私を「万引き」という犯罪に結びつけてしまった。

でも、黙ってれば済む話じゃないですか？
こっそり食べて、ゴミを捨てて
上手くやればバレる事のない、万引きと言う行為。

結局自分が悪いと思って
後々怒られる事を覚悟して、打ち明けたんですね。

まあ…怒鳴られました。
てか逃走する私を追いかける母、漫画の様な光景でした。
たった10円のチロルチョコの万引きに、情けない思いをさせてしまった母は泣いてしまいました
。
私も辛かったですけどね。でも…貧しかったから、万引きしてでもお菓子が欲しかったんです。

その後店主に謝って、10円を返しました。
まあ当時はそんな事なんて小さな事件と処理されますが

今の子は万引きの重みって分かってるのかな…と思います。

謝れば済む問題じゃないんですよ。
家族も店も苦しむ、行為なんですよ。
そして何より自分も苦しいんですよ。惨めになるんです。

でも、その一つも思わない万引き犯は
もっと可哀そうだなと思います。
欲しいから、お金が無いから。分かります、欲しかったのでしょうお金が無かったのでしょう。
でも
手を出す前にもう一度考えて欲しいです。

元万引き犯が何を言うかって話ですけどね。

その頃から、お金が無い不自由さを感じだしたのだと思います。

チロルチョコ、今でも覚えてます。
アーモンドのチョコレートでした。
大好きだったんです。先にチョコレートの部分を食べて、後でじっくりアーモンドを食べる。
それすら買えなかった、だから万引きした。

最低ですよね。でも…
お金が無い事に、心が貧しくなった自分が一番情けないと感じたきっかけだったと思います。

逃亡

いやー夜更かしって

悪いですね。

タイトルは逃亡。現実逃避じゃなくて
本気で逃亡した事があります。

理由は、何かいまいち覚えてないんですけど
自分の癇癪で妹を怪我させて
父親にマジ追いかけられたんです。

必死で逃亡しました。
まあ昔の父親なんて怖いもんですが
本気で怖かったです。
そのトラウマがあって未だに父親を怖いと思う情けない一面もあり
本音で語った事が今までありません。

かと言って自分の部屋がある訳でもなく
逃げると言ったらもう海しかなかったんですね。
帰る事も出来ず、泣きわめき、とにかく許しては貰ったんですけど
怖かったと今でも思い出します。

両親とかのトラウマが今の性格に影響するというのは
結構ある話ですよね。
目の前で茶碗割られたりとか、そういう事結構あったので。
かと言って今は丸くなったのか、いいえ。後ほどこの父親が
私に対して最低な事を言います（ご期待あれ）

でも親から逃げるって
今でもあるんでしょうか？
家出…ですよね？その時が私の反抗期だったのか
そもそも私自分で認識するほどの反抗期を感じた事が無いんですね。

家を出るって、とても勇気が必要だと思うんですけど
溝は深まるなーとは思います。

でもその位の潔さを、決して全否定する事はありません。
一度は親から離れるべきなんだと思います。

自立とはまた違う、親との決別。
多分そういう苦い経験をして初めて自立して、また戻ってくるか
それとも距離を置いたままになるのか。
分からないですけど
私も一度そういう経験をした、それ自体に無駄とは感じたりしません。

一回でも良いからぶつかり合う。
それって凄く大事なことだと思うんですが…
だからと言って親を心配させるというのとはまた違うと思いますけどね。
ただ私の場合ぶつかり合う以前の問題で、酷い事を言われてから
もう父親と本音で話し合う事もないと思っています。

最低ですけどね。
でもこういう生き方が多分一番後悔するんだと思います。
だから出来る人は一度でいいから、親とぶつかってください。
逃げる事も、家出をする事も、決して無駄な事ではないと思います。
何らかの衝突があって、生まれるものもあるんだと思います。

さて、ここから
中学生部門に入っていくと思います。
この時代が暗黒と呼ばれる…まあ、あれですよ。

「いじめ」です。

違和感の始まり

小学生後半から、中学生の時でしょうか
この頃に色を付けるとすれば、「真っ白」のような気がします。
大概嫌な時代とするならば「暗黒」とか「真っ黒」とか
ナーバスな色で表現したりするでしょうが

私にとっては「真っ白」な時代だったと思います。

きっかけは、運動会。
何かあるぞと運動会。
そもそもまだ小学生前半の時は、本当に何もなかったんですけど
その出来事は突然起こりました。

団体競技だったんですけど
運動会ってそりゃー多くの参加者や観客がいて
家族も見てます、親戚も見てます。色んな人が
赤と白の競い合いに、歓声を上げたり応援したり
当たり前の事が、その時どんな力が働いて屈折したのか分からないけれど

沢山の人が見ているその競技場の真ん中で
私は複数の同級生に突き飛ばされました。

怪我…は、無かったです。
ちょっと転んだだけで、大した事無くて
でも一瞬何が起こったのか、分からなくて
気のせいかなと思って駆け寄ろうとしたら、また一

突き飛ばされて、弾かれて
その時「あっ…」と思ったんですね。

今この場に、自分という存在を必要としていない。
子供でもすぐに理解できました。

沢山の人が見つめる競技場で、その光景の異変を
どの位の人が察したか分からないですけど
気づけば私のチームは負けてて、しばらくの間その場にポツンと

取り残されていました。

それが
「いじめ」の始まりでした。
まだ冒頭というか、予告編みたいなものですけどね。

その後どうなったかというと
私のクラスの先生が、突き飛ばした光景をしっかり見ていたので
どうしてたった一人をのけ者にするのかと、真剣に怒って頂きました。
その時の先生は今何処にいらっしゃるのか、ちょっと分からないんですけど
今思えば素敵な先生に恵まれたなと思います。

でも、それは真っ白な時代の幕開けだったんです。
そのきっかけって予測できないもので、ある日突然始まったパターンが多いと思います。
私の場合その運動会がいじめのきっかけだったと思います。

その運動会を最後に、私は中学生に進学します。
田舎ですから勿論クラスも一緒で、その後どうなったか…もう一度色で言うならば
「真っ白」な３年間だった、と言わせていただきます。

思い出せないんです―
私、同級生の一人も思い出せない。
分かるのは親戚の従弟位、それ以外―何も、思い出せない。

突き飛ばされたのを、恨んでいるわけじゃないんです。
勝つ為に必要だったのかもしれないですし、思わず…という可能性だってある。
憎む事もしません。もし本当に悪意があったとしても

私はその時をきっかけに
そうなる運命だったのかもしれません―

保健室と校長室の常連

良く、いじめられっこというのは
保健室か校長室の常連になりますよね。

気づけば、クラスの中に溶け込めなかった私は
保健室や校長室に逃げ込むようになってました。
しかし一つだけ、普通じゃない所があって

実は、こういう事例の片鱗を見せたのは
私が最初だったという事です。
今までその学校にいじめという事すらなかった、しかし
保健室や校長室に逃げ込む私が、その学校に「いじめ」という
一つの問題の芽吹きだったと聞いています。

まあともかく
どっちかというと校長室のほうが居心地良かったですね。
先生も優しいし、校長も優しいし、保健室の先生はどこかサバサバしてて
まあ悪くないんですが、ちょっと割り切り方がスパーンとしてた感じ。

でも、一応その時は
クラスに戻ってました。
休み時間ぐらいですね、保健室や校長室に入り浸ってたのは。
学生ですから授業を受けないといけない、でも

たまに、椅子の上に画びょうが置かれてたり
給食を待っていても、私の分だけ用意されなかったり
じわじわと「何か」が起こりつつありました。
でもそれもまだ耐えられる範疇で、私は多少戸惑いを感じながらも
授業を受けていました。

今のいじめのスタイルってどんなものか知らないのですが
穏便…というより、陰湿だったと思います。
足を引っかけられて転ばされたり、話しかけようとしても距離を置かれたり
その頃からもう保育園の時のように、同級生という関係の間に隔たりが生まれていました。

校長室と同じくして

良く向かったのは、鯉が泳ぐ池。
その縁に座ってぼんやりしてました。
綺麗とは言えないんですけど、誰も来ないので一人ぼっち。
気ままに過ごしてました。
かと言って鯉に話しかけたりなんてしませんでしたけどね（笑）

校長室は、結構本があったんですね。
その時読んでたのが、確か…シャーロックホームズシリーズと
ブラックジャックシリーズでした。
別に本が好きな訳じゃないんですけど、そういう形でしか時間の過ごし方が
分からなかったというか…

そういえばですね
中学校に入ると部活というのがあるじゃないですか？
当然、入りましたよ。美術部。
うわーインドア、と思いますよね。でもそれしか自分に合わなかったというか…

そこで、ある一つの事件をきっかけに
その中学校始まって以来の「問題」が起こってしまうのでした。

余談

2011/12/10日をもって
自分の運営していたサイトとブログを消去しました。

理由は

何を言っても

私が悪いのだと思います。

ただ、人を晒すという行為だけは
許せなかった。

とても辛い決断でした。

これからは静かに生きたいと思います。

一思い出す、言葉は

「お前なんかネットから出ていけ」

たった一人のオタク

余談で少しこの作品の時間枠がずれてしまいました。
申し訳ございません。

ただ、ペンネームごと
晒されてしまったので、ブログもサイトも閉鎖せざるを得ない状況だったのです。
その後もずっと晒されたままで…ただ、本人はその重要性をあまり感じなかったのか
詫びることもしませんでした。

自分が、正しいと。

まあ、そんな事はさておき
美術部に入ってからの事ですね。
もう今じゃ普通かもしれませんが、当時としては珍しく
パソコンでイラストを描く事もありました。

その時自分はちょっとオタクだったんですね。
ゲームが好き、アニメが好き。だから描く内容もそういうのに傾倒してて
周囲からは「変な人」のレッテルが貼られました。

当然なんです。その時は
オタクという文化が無かったですから。
ゲームやアニメというメディアがあるにしろ、ハマる人はどこか異質で
距離を置かれるのが当然。
有名な話ではその頃は「同人誌即売会」すら警察が摘発するほど
あまり受け入れられなかったものでした。

ゲーム、好きでしたよ。
当時はスーパーファミコンとかでしょうか。
ギリギリでプレイステーションが出たぐらい。

そんな私が美術部に溶け込めるかどうか
無理な話です。
クラスと同様、距離は置かれ…その決定打になったのは

運動会に展示する、巨大なイラストパネルの作成でした。

イラストは何でもいい。好きなのを描きなさい。という先生の指示で
私が入れるグループなど最初から無く
当たり前のように一人ぼっちでその一枚の巨大パネルを描く事になりました。

その時もゲームのイラストでした。
他の人は当たり障りのないイラストを描いているにも関わらず
私だけ「オタク臭」を出すそのイラストに、侮蔑する人笑う人
そんな嘲笑を受けながら、何とか描き上げる事ができました。

ただ、たった一人の作業というのは
どの先生から見ても、普通ではない。
恐らくいじめの片鱗を感じ取ったのでしょう。

その出来事は、私の存在を
「クラスから隔離する」という結論に至りました。

そう
私は、二年生の時から
クラスから隔離され、何時も一人で授業を受ける事になったのです。

その場所はくすんではいたものの
真っ白でした。
粗末な机と椅子。窓もなく、空気は淀む。

季節を感じなかった閉鎖的な空間で
私は一

腫物を扱うように、職員室の隔離部屋で
残りの中学生時代を過ごしてきました。

だから私は残念な事に
同級生を覚えていません。
名前ひとつ知らないのです。

きっと、その時
自分が無意識で全ての人に対する記憶を

排除したのでしょうね。

従兄弟にも拒絶され

隔離部屋で授業を始めるようになってから
同級生との距離はどんどん広がる一方。
正しい処置だったかもしれないけど、あのままクラスに居たとしても
もっと酷い事が起こるかもしれなかったけど

一人ぼっちの授業は
全く頭に入らなかったです。
それが頭の悪い理由。未だにまともな計算ができません。
文章なら書けますけどね、それとはまた別。

まあそんな事はさておき
田舎ですから、同級生に私の親戚「従兄弟」が二人ほどいました。
どちらも母方の縁者ですが、男の子であっても
多少話す事はありました。

その時だけ、自分はまだ一人じゃないんだなと
思ってたのですが
ある日突然、悲しい出来事が起こりました。

ほんの一瞬だったんですけどね。

話しかけようと、しただけなんです。
その場の事も考えないで。
普通に今まで通り、会話するだけだと思ってました。

「周りが見てるから、話しかけないでくれ」

ーーーー

親戚だろうと、従兄弟だろうと
周りから拒絶されている私と仲良く話をする事は
自分にとって危険だと思ったのでしょう。
要するに、自分も同じ「変な人」と思われたくなかったのです。

そのまま去っていく後姿を見て
呆然としてました。
あっという間の出来事に、今自分は親戚とか従兄弟とか
そういうの全部否定され、拒まれた事をすぐには認識できませんでした。

ただ、時間の経過とともに
私は本当に一人になってる事を、怖いと感じるようになりました。
いじめという一つのきっかけで、色んな縁が遠ざかる。
さっきまで話していた事も普通だったのに、いじめられているという私の現実から
自分も同じに思われたくないと、去っていくその姿よりも

私の方が本当にちっぽけだと思ったんです。

その事は未だに
両親には言ってません。
自分の心に仕舞って、今さら出したところで
過去が変わるか今が変わるか、何も変わりません。

その従兄弟は、今
私よりも出世して、あるチェーン店の店長を務め
結婚もしています。

連絡はとっていません。
まあ親族の冠婚葬祭位でしょうか。
恨んでいるから話さない、という訳じゃなく
自分と関わるとろくな事がないだろうと、諦めているのです。

ただ、その従兄弟が
初恋だったというのも、また秘密。

ちなみにもう一人従兄弟が居ましたが
論外でした。

話しかけてもくれなかったんですね。

その拒絶からしばらく経過し
密閉された空間で１人３年生に進級した時

ある一人の先生との出会いを経験します。

余談２

まー何というか

スマートフォンって難しいですね。
いや、今日購入したんですけど、全く分からない。

その理由はここに掲載しているパブーの自分の電子書籍を
読む為だけの事なんですが
いざダウンロードして読んでみたらアラ！？

とてつもなく読みづらい…

これは一ページに収めるカスタマイズとか出来ないのでしょうか。
自分が切りたい、間を置きたいと思った場所が上手く設定できていない。
読む側として、これはきついな…と。とりあえず後日問い合わせてみます。

いやもう今日はスマホだけで精一杯というか
お腹いっぱい。
販売者の手違いもあるんだよ…だからこんな時間まで
スマホと睨めっこしてたんだよ。

しかし恥ずかしいものですね。
自分の作品を読んでいただくというのは。
でも少なからずダウンロードしてくださってる人がいて
それだけで嬉しいです。

まあそのあたりもこのエッセイで深く語ろうと思います。

チーズにしますか餅にしますか？

先生の事を、どう表現するかと言えば

「チーズか餅か」という言葉を使うと思います
どういう意味かというと、自分の家でお好み焼きパーティしないかと
誘ってきた先生が居たのです。

あ、いかがわしい事じゃなくて
普通に隔離教室で授業を受けていた私の事を心配して
自分の家に招こうとしただけの事です。
それに既婚者ですし、全くいかがわしくない。

その先生は、本当に良い先生でした。
吹奏楽部のカリスマでもあったんですが、クラス担任だったこともあり
いじめと隔離教室で過ごす私の事を気にしてくれてました。
ただ、お好み焼きをその先生の家で食べることはありませんでした。

なんとなく拒否感があったんですね。
もう誰とも話したくない…というか、信じる事が出来なくなってきたというか
早く卒業したい、この生活から抜け出したい。どうせ構ってくれる先生の言葉も
信用ならない…典型的に病んでました。

今思えばその好意をきちんと受けいれておけばよかったなと思います。
今頃お元気でしょうか…この前会った時は少しやせていた気がしますけど。
それと焦げてた。色白だったのになー…お子さんも大きくなって
ただ出会った時がかなり病んでる真っ只中だったので…

そういえばもう一人個性的な先生もいました。
何というか…宇宙についてひたすら語る理科教師なんですが
理科だったら宇宙も別に普通だと思いますけど、どっちかというと宇宙とは？な
別次元の考え方をする人の授業…を受けてました。
あ、教団とかじゃなくて普通に授業を受けたというより、聞いて欲しいのかなと思って
無言で耳を傾けてましたが、さっぱりわかりません。

今でも、うん。

先生には恵まれたような気がします。
ただ同級生には恵まれてない。
同級生の友達なんて一人もいません…でも、先生の理解があったからこそ
三年間ちゃんと学校に通えたんだと思います。

ただ…のしかかるのは
進学問題。
隔離教室で受けた授業なんて、微々たるもので
どんなに先生がサポートしても、人並みに学べはしなかった。
数学英語、理科に社会。国語にその他、何一つ

きちんとした授業を受けなかった私が
試験を受けられるかどうか

そう、その後に待っていたのは
高校への進学問題。
一番…苦しかった時期が訪れようとしていました。